



第3章 観測装置

観測装置
検出器
機器開発
装置交換

“ 岡山のInstrumentation ” 西村 史朗
“ 岡山製CCDカメラ立ち上げの頃 ” 川上 肇
“ 写真からCCDへ、そして像改善への基礎開発 ” 家 正則
“ SNG物語 - 74吋を星から銀河に - ” 大谷 浩
“ 赤外線観測事始 ” 奥田 治之
“ OASISの開発 ” 奥村真一郎
“ 京都三次元分光器の開発 ” 石垣 剛
“ 岡山の太陽観測 ” 牧田 貢

馬頭星雲

オリオン座にある暗黒星雲で、1000光年の距離にある。赤い星雲(IC434)を背景に、馬の頭のような形が浮かび上がって見える様子から、馬頭星雲と呼ばれている。宇宙空間には、あちこちにガスが漂い、ところによっては、濃いガス(分子雲)が固まって存在している。濃いガスの塊は光を通さないで、ガスの塊のうしろに多数の恒星や明るい星雲などがあると、それらを背景にして、ガスの塊が影絵のように浮かび上がって見える。これが暗黒星雲である。星は、このようなガスの塊の中から生まれると考えられている。写真は陰画で、向かって上が西、右が南。

撮影期日：1968年2月26日、露出：120分、乾板：103aE、フィルター：R-60、現像：Pandol 8分